

いよいよ入試本番、学習の質を上げよう！

茗溪塾塾長 長谷誠基

11月に入り、朝晩は大分冷え込むようになってきました。今月中3生にとって最も重要な定期試験があり、東京都では今年度初めて実施となる都立高校の英語のスピーキングテストも行われます。千葉県では12月の初めに第1志望入試や公立一貫校の一次検査があり、大学入試でも学校推薦型選抜や自己推薦型選抜が行われ、いよいよ入試本番といった雰囲気になってきます。

入試が近づくと、生徒たちはあせりのあまり何か効率の良い勉強がないか探し求めるようになります。一番まずいのは時間がかかる「考える勉強」をやめてしまうことです。たとえば「〇日間完成」などの問題集に今から手を出してしまうことです。この手の問題集を批判するつもりはありません。使う時期が違うということです。こういう問題集の特徴はその教科または分野全体を短時間で総整理できるところで、確かに全体を見直す意味はあると思います。直前期にチェックの意味でやるのがいいと思います。基本的な問題はどんどん解けるので、気分的にも非常に良くなりますが、今の自分ですら解ける問題をいくらやっても「考える力」＝実力はつきません。みなさんが第1志望にしている学校には本当にそういう基本的な問題しか出ないのでしょうか？そうではないはずです。基本の総整理は直前期でもまだまだできますので、今の時期こそ「考える勉強」を中心に置くことが重要です。

特に算数や数学の志望校の問題は1問1問に結構時間がかかり、やり直しにも時間がかかります。つい避けてしまいがちですが今の時期こそ、問題を様々な角度から考えて試行錯誤することで考える力がついていきます。そして解説を読んだり先生に質問したりして「そうか！そういうことか！」という理解につながると1つの理解が次につながっていく勉強になり、実力がどんどん伸びていきます。急激に実力を伸ばす生徒が毎年やっているのは、こういう地道な努力を続けていくことなのです。

模擬試験や過去問の結果が出てくると、保護者の方もあせって動きがちになりますが、そのあせりは必ず本人に伝わり、勉強に身が入らなくなります。「このままで大丈夫だろうか？」と思うのは非常によくわかりますが、それは本人の前では見せず、まずは担任の先生に率直に相談してみてください。本人にあった解決法を一緒に考えてくれると思います。

受験まで残った時間は大人からすればあっという間ですが、子供たちはこの短い時間でまだまだ成長していきます。そんな最後の追い上げ時期の今、やり直しの中で「考える勉強」が一番重要だということを忘れずに頑張ってください。